

つどいメン選手権

いわき市内には現在およそ400カ所のつどいの場があります。我々いごく取材班は、各地で忘れられない美味しさと出会ってきました。いや、美味しきと言うより「なにこれうめえ!」という感動。母ちゃんたちは言う。「よばれな、よばれな!」

北二区集会所 好間地区



大鍋で仕込まれたカレー。トッピングが鮮やか。この香り、このうまさ、届けたい。取材班にはメガ盛が振る舞われた。内心「こんなに食べるか!」と思ったが、なんとペロリ。人生で初めてメガ盛を食しました!

北二区集会所 好間地区



自家製の甘く漬けた梅干しと、前日から水戻したの天草で作られた寒天。梅干しがやたら美味かったので、なにで漬けたのか尋ねると「うーん、忘れた」。もう二度と再現できない味と出会ってしまった。

下三坂集会所 三和地区



参加された皆さんが、各々自分の畑で育てた野菜を持ち寄り、作られたオールスター味噌汁。もちろんお味噌も持ち寄られた自家製のもの。どれ、いただきます。出たてをズツと。ハア、うめえ。



緑川しのぶさん・佐久間さん



感動のグランドフィナーレ

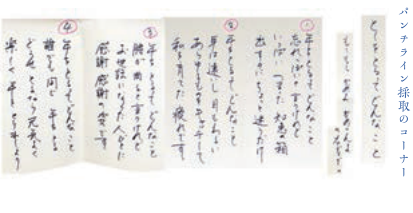
今回の特集テーマは在宅療養。いかにして生活できるようにするか、まだまだ具体的には分からないという人がほとんどでしょう。多くの人たちが、家族に何かを任せたりはしないものでも、何ともないというに考えておくこと、知ることも必要だね、ということ、知り、わが家では、自介護をテーマにした「演劇」制作上演し、在宅医療のいろはを知ってもらおうという取り組みを始めた。

制作・上演しているのは、いわき市内の劇団、ではありません。なんと、いわき市で在宅医療に関わる「平在宅療養多職種連携の会」の皆さんが自前

で作り、自分たちで役者になって、それを上演しているのです。先日、その第1回公演が、草野公民館で年に3回開催されている「たっしやか草野」というつどいの会でも上演されました。劇のタイトルは「家で暮らしたい」です。

劇の中心は、医者、ケアマネ、薬剤師、理学療法士らプロフェッショナルが自らと同じ職業の役柄を演じ、脳梗塞でリハビリが必要になった架空の旦那さんと、夫を介護する奥さんの2人を軸々に支えるという、奥さん役は、地域包括支援センターの職員、緑川しのぶさん。夫役は、実際に草野で暮らす民生委員の佐久間さんを起用。夫が脳梗塞で倒れ、リハビリを余儀なくされ

介護演劇「家で暮らしたい」上演記



パンチライン採取のコピー

編集後記

「人は「死」を意識すると、パフォーマンスが向上する」これはアメリカのスポーツ心理学誌「Journal of sport and exercise psychology」に掲載された研究結果です。バスケットの試合前に「いずれは誰も死を覚悟すること」をほめられた選手は、そうでない選手よりもシュートの成功率が段違いに高かったというものです。igokuマガジンの記念すべき創刊号、巻頭の特集は最期の迎え方。自分が死ぬことでもなく、今を充実させて生きるために必要な事と取材を通して確信しました。後半は古い魅力の魅力をポートレートで表現しました。発行にあたりご協力下さったみなさまに、改めてお礼申し上げます。これからもいわきで生き生きと最期を迎えるみなさまに心を尽くせるよう、努力と企画を重ねていきます。乞うご期待!!! (わ)

igoku編集部

編集長 猪狩俊 紙の「igoku」創刊号 2017年12月1日発行
ディレクター 渡邊隆一 発行 いわき市 地域包括ケア推進課
エディター 小松理處 印刷 株式会社 植田印刷所
デザイナー 高木市之助

webの igoku www.igoku.jp
いわきの地域包括ケア「いごく」

igokuのwebサイトでは、いわき市各地の「つどいの場」を紹介しています。また、素敵な方々へのインタビューや、市内での取り組みなどの情報を発信中。ぜひ覗いてみてください。Facebookも開設しています。

フクシ本



映画や漫画の面白い点は体験を共有できるということ。家族や友人と集まって、自分が登場人物だったらこうするとか、作者の意図はどこにあるのか、といった話をするのには楽しいです。僕がこれをまとめた「介護」という仕事も、まるで映画を語り合うように人生や将来の夢を語りながら楽しんできたらと思いますが、ひとりひとりの切実な生活がある中でその難

しさを感じています。しかしストーリーの結末だけを知ってその作品を観たことにはならないように、介護も福祉も大切な結果や目的ではありません。支援を受けている間も、支援をしている間もひとりひとりの切実な生活の一部だからです。

今回は介護士のバイブル「ヘルプマン」(講談社)から11巻、12巻を紹介したいと思います。夢と現実が交錯する世界で、まさか自分が...という恐怖に追われる主人公、認知症当事者を体験できる貴重な一作です。是非ご覧下さい。

文 早坂博(ラジシノワ)



「ヘルプマン」(11巻、12巻)くさか里樹/講談社

igoku Fes 2018 史上初! 地域包括ケアの祭典をアリオスで開催!



紙の「igoku」でも、webサイト「igoku」でも、ご自身ご家族が、今、介護状態などの「当事者」だけでなく、「まだ先のことだね」と思っている方々にも、手に取ってもらい、見て、読んで、そして、(ちょっと)考えてもらいたいという思いで、取材し、写真を撮り、文を書き、デザインして、届けようとしています。

日々、このいわきの各地で起きている様々な取り組みや「いごき(動き)」は、紙媒体やwebで、「間接的に」お伝えしていきますが、年に一度は、みんなで集まって、「直接的に」体験しませんか? 「igoku」でお伝えしてきた、あの人に会えるかも。あのおばちゃんの味が食べられるかも。「認知症」「介護」「家で死ぬ」? そんなことも、難しく勉強するんじゃなく、泣いたり、笑ったり、自分がやってみたりしながら、考えたり、感じたりする一日。それが、「igoku Fes 2018」です。

元気な人、素敵な団体、オモロイ取り組みを紹介します。家で暮らし、家で死ぬということを、即興演劇集団6-dim+(ロクディム)

が、抱腹絶倒の劇で。生きること、それも健康に笑いながら生きることをご存じケース-高峰師匠が漫談で。その他にも、コンテンツでんご盛りです。楽しみながら、体験し、「生」と「死」をちょっとだけ考え、大事な人と話し合う機会になれば。

igoku Fes 2018、ご家族・ご友人お誘い合わせの上、是非お越しください!

文・猪狩俊 (igoku Fes 統括プロデューサー)

igoku Fes 2018 いわき芸術文化交流館アリオス
2018年2月3日(土) 11:00-15:30 入場無料

中劇場でのigoku表形式やケース-高峰師匠による舞台公演(整理券要)、中リハールホールでの「YEAH!」鑑賞会、カンティーンでの「つどいの場グルメ」のほか、入場体験コーナーなど盛りだくさん!

出演/ケース-高峰、即興演劇集団6-dim+(ロクディム)、オナハマリックパンチライン、叩

お問合せ いわき市 地域包括ケア推進課 0246-22-1202